



公益社団法人 日本ホッケー協会

報道各位

第46回 全国高等学校選抜ホッケー大会の公式試合記録および各試合戦評をお知らせいたします。

どうぞ宜しくお願いいたします。

日本ホッケー協会 事務局 〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1岸記念体育館内 TEL 03-3481-2330 FAX 03-3481-2329	<u>本件に関するお問い合わせ先</u> 岐阜県ホッケー協会運営委員 連絡者氏名 和田 真二 TEL 携帯TEL 090-3259-5502
---	--

第46回 全国高等学校選抜ホッケー大会

開催日時 3 月 30 日 (月) 会場 岐阜県グリーンスタジアム 天候 晴れ

【全試合結果】 < Aコート >

女子 決勝 9:30	岐阜各務野高校	3	$\begin{pmatrix} 1 & -2 \\ 2 & -0 \end{pmatrix}$	2	石動高校
男子 決勝 11:20	横田高校	0	$\begin{pmatrix} 0 & -0 \\ 0 & -0 \end{pmatrix}$	0	丹生高校
0 延長 0 SO 3-2					

【各試合の結果・詳細】

Aコート 女子 決勝

$$\text{岐阜各務野高校 } 3 \begin{pmatrix} 1 & -2 \\ 2 & -0 \end{pmatrix} 2 \text{ 石動高校}$$

<得点>

各務野 : 27分佐守、43分岡田、54分上園
石動 : 2分西尾、13分辻谷

<戦評>

石動高校のセンターパスにより前半戦が開始された。開始早々石動が攻撃を仕掛け、2分#2西尾がタッチシュートを決め先制点を挙げる。追いつきたい岐阜各務野高校は3分にPCを取得するも、石動の堅い守備により阻まれる。両者ともに前線へボールを送る中、13分石動#12辻谷がプッシュシュートを決め2-0となる。その後各務野が果敢に石動陣内へ攻め込み、28分#8佐守がヒットシュートを決め2-1となる。流れを掴んだ各務野は積極的にシュートを打つが、得点には至らずそのまま2-1で前半戦を折り返す。

後半戦に入っても各務野ペースで試合は展開。47分各務野はPCを取得すると、#2岡田が豪快なヒットシュートを決め同点へと追いつく。更に19分#13上園がタッチシュートを決め2-3と逆転する。得点が欲しい石動も#9西尾のドリブルを中心に攻め込み、30分PCを取得。得点には結びつかないがその後も石動の猛攻撃は続く。だが各務野が粘り強い守備を見せ、得点は動かず2-3で各務野が勝利し、5年ぶり17回目の優勝となった。

テクニカルオフィサー	竹内 芳郎	アンパイア	藤原 真由美
ジャッジ	岩田 順充		押田 幸二
ジャッジ	梶田 賢二	リザーブアンパイア	児玉 茂樹
サジェスチョンアンパイア	竹内 高広	サジェスチョンアンパイア	富山 喜正

Aコート 男子 決勝

$$\text{横田高校 } 0 \begin{pmatrix} 0 & -0 \\ 0 & -0 \end{pmatrix} 0 \text{ 丹生高校}$$

0 延長 0
SO 3-2

<得点>

横田 :
丹生 :

<戦評>

昨年雨で両校優勝となった横田高校と丹生高校の同カードとなった試合は、横田のセンターパスにより前半が開始された。早々から両チームの激しい攻防が繰り広げられる。16分に丹生高校がPCのチャンスを得るものの得点には結びつかない。その後、徐々に丹生のペースで試合は進むが、決定的なチャンスを作ることが出来ない。両チーム無得点のまま前半戦を折り返す。

後半も両チーム激しい攻防を繰り広げる。互いに積極的な攻撃を仕掛けるも得点には結びつかない。横田は粘り強い守備から速攻で攻撃に繋げるも、丹生も堅い守備で得点を許さない。互いに得点を挙げられないまま0-0で延長戦に入る。

延長に入っても行き来の激しい展開は続く。71分丹生がPCを取得し、得点したかと思われたが、横田のチャレンジが認められノーゴールとなる。互いにゴール前まで攻めたてるも両チームとも堅い守備を打ち破ることが出来ない。83分丹生がPCを取得し、チャンスを得る。しかし、横田の粘り強い守備により得点には至らずそのままSO戦となる。

SO戦は、1人目は互いに決まらない。2人目は先攻の丹生#6館がリバースシュートを決めて1-0とするが、横田の2人目はシュートが決まらない。3人目の丹生が外し、横田#12植田はGKを冷静にかわして決めて1-1の同点とする。4人目の丹生#8鶴飼はGKをかわしプッシュシュートを押し込み2-1とリードする。横田は#9伊帳田が一度GKに止められるが、落ち着いてシュートを決め、再び2-2の同点とする。5人目の丹生#10藤原がGKの好セーブに阻まれ決まらない。横田は#10池尻がGKをかわしてプッシュシュートを決めて3-2とし、決勝戦の決着がつき横田が2年連続6回目の優勝となった。

テクニカルオフィサー	苅谷 和代	アンパイア	渡邊 道彦
ジャッジ	岩田 順充		児玉 茂樹
ジャッジ	梶田 賢二	リザーブアンパイア	押田 幸二
サジェスチョンアンパイア	鹿野 育郎	サジェスチョンアンパイア	山本 誠